

2024年5月16日

課題名： リバース型人工肩関節置換術後の機能的内旋動作に肩関節自動伸展運動
が及ぼす影響

◆研究の目的と概要◆

当院では、リバース型人工肩関節置換術後の機能的内旋動作と肩関節運動の関係について調べています。

本研究では、リバース型人工肩関節置換術後の肩関節伸展自動運動が機能的内旋動作の改善に影響するかどうかを明らかにすることを目指し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2014年1月から2023年9月の間に、腱板断裂性肩関節症または広範囲腱板断裂と診断され、リバース型人工肩関節置換術が施行され、当院で外来リハビリテーションを受けた患者さん。

◆研究に使用される情報・試料◆

機能的内旋動作の程度、肩関節自動伸展角度、年齢、性別、身長、体重、手術時の状況（人工関節の機種、骨切り角度、肩甲下筋の状態）

◆情報の研究利用開始日◆

2024年7月1日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
リハビリテーション部 研究責任者 熊代功児

E-mail： kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明